

3-2. 公園緑地整備事業

3-2-1. 事務事業評価シート

事務事業評価シート				H 28 年度	
事務事業名	公園緑地整備事業			総合計画 個別施策 コード／名	3231 身近な公園・緑地の整備
新規・継続	継続	事業開始年度	S45	担当課	道路公園課
根拠法令等	あり 都市公園法、阿見町都市公園条例、第6次総合計画、都市計画マスタープラン				

1. 事業の概要

【事業内容】 都市公園の全体計画(36箇所 47.7h)の内, 21箇所 35.5haが整備済みであり, 残りの15箇所 12.2haの都市公園について整備を推進していく。 【内訳】 街区公園 全体27箇所8.7ha 整備済14箇所3.7ha 未整備13箇所5ha 近隣公園 全体8箇所16.5ha 整備済6箇所12.5ha 未整備2箇所4ha 都市基幹公園 全体1箇所 22.5ha 整備済 19.3ha 未整備3.2ha	【成果目的】 公園緑地を整備することによって,潤いのある安全で安心できる緑豊かな都市環境の形成を図る。 また,地域のニーズに合った公園づくりを推進し, 地域住民の心豊かな住生活に寄与する。
---	---

2. 活動指標と成果指標

			H26	H27	H28	H29
指標名			目標	目標	目標	目標
単位			実績	実績		
説明						
活動指標	都市公園整備面積	ha	町全体の都市公園面積	35.0	35.5	36.3
				35.0	35.5	37.1
	ワークショップ開催数	回	地域住民参加による開催数	4	0	3
				4	0	1
成果指標	都市公園整備率	%	整備済面積/全体計画面積(47.7ha)	73.3	74.4	76.1
				73.3	74.4	77.7
	町民一人あたり面積(目標10㎡/人)	㎡	都市公園整備面積/都市計画区域人口	7.3	7.4	7.6
				7.3	7.4	7.7

3. 事業費の内訳とコスト分析

(1) 歳出内訳			(2) 歳入		
H26年度(決算)	H27年度(決算)	H28年度(予算)	H26年度(決算)	H27年度(決算)	H28年度(予算)
293,498,506	76,682,206	135,106,000	255,855,000	65,400,000	133,902,000
↓			歳入内容: 交付金、起債、県負担金		
[種別]	[金額]	[内容]			
委託料	1,404,000	公園台帳作成委託料			
工事請負費	75,114,000	ふれあいの杜公園整備			
負担金	110,400	水道加入分担金、協議会負担金			
その他	53,806	事業用消耗品			

(3) 人件費(時間)

	H26年度		H27年度	
	時間数	人件費概算	時間数	人件費概算
正職員(時間内)	1,480	2,591,480	995	1,742,245
正職員(時間外)	49	107,249	44	96,305
臨時職員		0		0
その他				
合計	1,529	2,698,729	1,039	1,838,550

(4) 町民1人当たりコスト (事業費+人件費÷歳入)

	H26年度(決算)	H27年度(決算)
事業費	293,498,506	76,682,206
人件費	2,698,729	1,838,550
小計	296,197,235	78,520,756
歳入	255,855,000	65,400,000
計	40,342,235	13,120,756
町民1人当たり	約 840円	約 273円

4. 事業の方向性と取組方針

▼担当者記入	▼課長記入
2～3の考察と課題、改善計画 本事業は年次計画により,段階的に整備し順調に成果が現れている。今後も, 早期に良好な都市環境の形成を図るため, 計画通り事業を推進する必要がある。又, 地域のニーズに合った公園を整備するため, 今年度を実施する公園設計業務において, ワークショップによる町民との協働作業により公園計画を策定していく。	【方向性・業務改善】 理由 将来的な方向性 都市公園については, 吉原地区の公園整備を目標通りに実施し, 吉原地区の整備完了後については, その他の地域状況や財政状況を勘案しながら, 整備の方針を検討していく。 現状の規模で継続 業務改善 吉原地区の良好な都市環境の形成を図るため, 年次計画のとおり公園整備を推進していく。 改善の必要なし
→	【取組方針】 ※いつまでに、どんな状態にするか。そのために今年度は何をするか。 平成30年度を目途に吉原地区の公園整備を完了させ, 良好なまちづくりに寄与する。そのため, 平成28年度においては, 複数公園の設計及び公園の整備を実施する。

3-2-2. 委員会における評価と指摘事項

※分数は全委員のうち妥当であると評価した委員の数を示す

※「○」は「妥当である」、「×」は「妥当でない」を示す

委員会としての評価		補足
目的に対する手段	6/6 → ○	
活動指標	4/6 → ○	・ワークショップの回数を指標としているが、回数の問題ではない。 ・目標がゼロというのは再考が必要。
成果指標	4/6 → ○	
方向性	6/6 → ○	
業務改善	6/6 → ○	・ワークショップ等で利用状況を押さえるなどの改善が必要。 ・利用者の観点を入れていくという前提で妥当。
取組方針 (改善方針)	5/6 → ○	・目標 10 ㎡／人を目指すのであれば長期計画が必要では。

ヒアリングにおける主な指摘事項

- ・町の行政は、町民の福祉向上が目的であって、整備されていれば良いというものでもない。公園はあるが利用者はいないというように、宝の持ち腐れになっては意味が無い。町民の方が利用して満足してくれるから価値があるのであり、公園の数が、面積があつたとしても、利用する人がいなくては行政にならない。時々アンケートをとるとか、何らかの形で成果指標に組み込むべき。
- ・利用者数を把握しにくいということは分かるが、36 か所の公園のうち、1 週間でも良いと思うので、ある時間を決めて人数を数えるなど、夏と冬では違うなどあると思うが、定点を決めて利用者を把握していけば、利用状況が分かるのでは。
- ・ワークショップについて、整備する段階で住民の意見を吸い上げるというのは大事だと思うが、公園を作ってみて、住民の方が使ってみたらこうだったという意見が出れば、次の場所で活かせる。計画と結果は合わせて考えるという観点が必要。
- ・年度間で大きく差が出ている。全体をみて毎年これくらいの費用で整備していこうというものではなく、大きく差が出ては財政部局も困るのでは。
- ・取組方針は、H30を目途とあるが、成果指標では 1 人当たり 10 ㎡にするというのが目標。このペースでは 44 年くらいかかる計算。将来の計画は立っているのか。

その他の意見(ヒアリングシートにおける自由記載)

- ・利用者視点について検討の必要性あり。
- ・公園緑地整備事業だけでなく、利活用、維持運営事業もセットで考えることが必要。

3-2-3. 担当課による対応方針

平成28年度 外部評価結果に対する対応方針

事業名	公園緑地整備事業	担当課	産業建設部道路公園課
-----	----------	-----	------------

1. 目的に対する手段

目的に対する手段	外部評価結果	妥当である	事業内容の見直し:	無し
	担当課の考え方	妥当であるとの評価を得たため、現行の事業内容を継続する。		

2. 指標

活動指標	外部評価結果	妥当である	活動指標の見直し:	無し	※有りの場合は翌年度の事務事業評価に反映			
	現行	都市公園整備面積	ha	町全体の都市公園面積	H26	H27	H28	H29
		ワークショップ開催数	回	地域住民参加による開催数	35.0	35.5	36.3	37.1
	来年度	都市公園整備面積	ha	町全体の都市公園面積	4	0	3	1
		ワークショップ開催数	回	地域住民参加による開催数	35.0	35.5	36.3	37.1
	担当課の考え方	妥当であるとの評価を得たため、活動指標は現行通りとするが、今後は利用状況の確認及び改善方針を検証するため公園完成後のワークショップ開催を検討する。						

成果指標	外部評価結果	妥当である	成果指標の見直し:	無し	※有りの場合は翌年度の事務事業評価に反映			
	現行	都市公園整備率	%	整備済面積/全体計画面積	H26	H27	H28	H29
		町民一人あたり面積 (目標10㎡/人)	㎡	都市公園整備面積/都市計画区域人口	73.3	74.4	76.1	77.7
	来年度	都市公園整備率	%	整備済面積/全体計画面積	7.3	7.4	7.6	7.7
		町民一人あたり面積 (目標10㎡/人)	㎡	都市公園整備面積/都市計画区域人口	73.3	74.4	76.1	77.7
	担当課の考え方	妥当であるとの評価を得たため、成果指標は現行通りとする。						

3. 事業の方向性

方向性	外部評価結果	妥当である	現行の方向性 現状の規模で継続	方向性の見直し (見直し後の方向性) 無し
	担当課の考え方	妥当であるとの評価を得たため、現状の規模で事業を継続していく。		
業務改善	外部評価結果	妥当である	現行の業務改善 改善の必要なし	業務改善の見直し (見直し後の業務改善) 無し
	担当課の考え方	妥当であるとの評価を得たため、現状の規模で事業を継続していくが、公園の利用人数や利用状況について把握すべきとの意見があったため、公園完成後のワークショップ開催を含めその方法を検討する。		

4. 取組方針

取組方針 (改善方針)	外部評価結果	妥当である	取組方針の見直し 無し
	現行の取組方針 平成30年度を目途に吉原地区の公園整備を完了させ、良好なまちづくりに寄与する。そのため平成28年度においては、複数の設計及び整備を実施する。 【評価結果を踏まえた今後の取組方針】 平成30年度を目途に吉原地区の公園整備を完了させ、良好なまちづくりに寄与する。そのため平成28年度においては、複数の設計及び整備を実施する。また、平成30年度以降の整備計画については、荒川本郷地区や新市街地を形成する地区のまちづくりの進捗を見極めながら、計画的に整備を推進していく。		